



Simplex Institute

マイクロ先物の 商品説明と基本戦略

2024年 6月

直近の日経平均先物

日経225mini日足(2024/03/01~06/13)



日銀の金利政策変更の思惑と、米国景気と株の動向の不安

指数先物入門

日経225先物の種類

大: **large** (ラージ) と呼ばれ日経平均の約 **1,000倍** のサイズ

中: **mini** (ミニ) と呼ばれ日経平均の約 **100倍** のサイズ

小: **micro** (マイクロ) と呼ばれ日経平均の約 **10倍** のサイズ

取引の仕方や決済の仕組みに違いはない

証拠金の額も同じ割合

例: 2024年6月13日15時15分時点で日経平均は **38,720.47円**

6月 **large** の価格は **38,720円**, 取引額は **3,872万円**, 証拠金は約 **180万円**

6月 **mini** の価格は **38,715円**, 取引額は **387万1,500円**, 証拠金は約 **18万円**

6月 **micro** の価格は **38,700円**, 取引額は **38万7,000円**, 証拠金は約 **1.8万円**

注) 参加者の違いで **large, mini, micro** の価格が同時刻でも異なることがある

先物取引と株取引の違い

	先物取引	現物株取引	株信用取引
売買代金受渡し	不要	必要	不要
現金・株式貸借	不要	不要	必要
証拠金	必要	不要	必要
決済	差金決済	現金決済	現金決済
取引の期限	あり	なし	あり
レバレッジ	20倍程度	なし	3倍程度
ポジション	「買い・売り建玉」	「買い建玉」のみ	「買い・売り建玉」

注)「レバレッジ」とは証拠金に対する売買代金の大きさを表す

先物は証拠金の割合が小さい

証拠金を「損失に備える担保」と考えれば、先物取引よりも信用取引の方が多めの担保を積んでいることになる

これは一般に個別株の方が指数よりも値動きが大きいので不思議はない

先物取引の必要性・優位性(1)

多くの投資家が指数先物取引を行う理由(1)

- 個別株は発行体(トヨタ, ソニーなど)の情報に詳しい投資家が有利
この最たるものが「インサイダー取引」
しかし日経平均や TOPIXなどの指数であればその情報格差は小さい
→ とは言え, 「市場や相場の勉強」がまったく不要というわけではない
- 証拠金取引でしかもレバレッジが大きいいため資金効率が良い
日経microなら 39万円の売買代金に対し必要証拠金は 1万 8千円程度
→ 見方を変えれば少ない資金で大きな取引が可能
しかし「自制心」を失うと過大なリスクをとってしまう危険性がある

先物取引の必要性・優位性(2)

多くの投資家が指数先物取引を行う理由(2)

- 相場の向き(上昇・下落)のどちらでもチャンスがある
「上がる」と思えば「買い」,「下がる」とみれば「売る」ことで利益を狙える
相場の方向に合わせていつでも対処可能な「強力なツール」
→ 株式を保有し相場大幅下落に巻きこまれても, 損失を軽減できる
- 夜間取引が可能(朝 6時まで)なので, 昼間は本業に専念できる
→ 「寝不足」にはご注意ください

先物の使い道

- 「ヘッジ」の道具としての先物
市場価格変動リスクのヘッジに先物を使う
例:相場下落の際の株式ポートフォリオのヘッジ
オプションのデルタ・ヘッジ
- 「アウトライト」の道具としての先物
「相場の流れ」や「市場参加者の動き」に合わせて
ポジションを取り利益追求

シミュレーターで先物売買を学ぶ

目的: 日経先物 **micro** を売買することで, 先物の以下の仕組みを学ぶ

- 「証拠金」や「値洗い」
- 「差金決済」
- **SQ**での「最終決済」
- 限月

投資資金は **10万円**

参考：NTレシオ取引（再開後）

「2匹目のどじょう」は怎么样了か？

戦略：4月24日に日経mini 5枚売り，TOPIXmini 7枚買い（NT売り）

その後の推移は下表の通り

	日経mini	-5	TOPIXmini	7	NTレシオ	週次損益	累積損益
4月24日	38,440		2,710.00		14.18	0	0
5月1日	38,210		2,728.00		14.01	241,000	241,000
5月8日	38,220		2,709.50		14.11	-134,500	106,500
5月15日	38,380		2,731.50		14.05	74,000	180,500
5月22日	38,620		2,736.75		14.11	-83,250	97,250
5月29日	38,490		2,740.50		14.04	91,250	188,500
6月3日	38,940		2,799.75		13.91	189,750	378,250

飽きてきたので6月3日引けで撤退

これらの結果から考えるに、しばらくの間、強気にも弱気にもなりづらい

ちなみに6月SQ値(38,535.35円 vs 2,714.56)でのNTレシオは14.196

※なお、これらは過去の値動きに基づくシミュレーションであり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません

さらなる勉強のために

大阪取引所から公開されているサイト

『OSE先物・オプション シミュレーター』

(<https://www.fopstudy.com/>)

- (1) 無料で先物・オプション取引を体験
- (2) ゲーム感覚で楽しく学習
- (3) 本格的な取引画面
- (4) 解説動画付きで分かりやすい

講師プロフィール

伊藤祐輔（いとうゆうすけ）

株式会社シンプレクス・インスティテュート 代表取締役

1976年早稲田大学理工学部数学科卒業，1983年同大学大学院理工学研究科後期課程修了。偏微分方程式論の研究活動のかたわら数学教育を続け，1989年ソロモン・ブラザーズ・アジア証券(現シティグループ証券)に入社。株式部長，株式デリバティブトレーダーとして10年間マーケットにかかわる。1999年インドスエズ・ダブリュ・アイ・カー証券(現カリヨン証券)に移りトレーディングデスクの再構築を行い2000年(株)シンプレクス・インスティテュート代表取締役就任。

免責事項

当資料の内容は、投資判断の参考として投資一般に関する情報提供を目的としたものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終的な決定は、ご自身の判断と責任においてなさるようお願い致します。株式会社シンプレクス・インスティテュートでは、当該情報に基づいて被ったいかなる損害についても、一切の責任を負うものではありません。

無断転載を禁ず

当資料の全部、または一部を無断で複写・複製・転載、および磁気・高記録媒体に入力することなどは、著作権法上の例外を除き禁じられています。

株式会社シンプレクス・インスティテュート

〒105-6319 東京都港区虎ノ門1-23-1

虎ノ門ヒルズ森タワー19階

URL: <http://www.simplexinst.com>

E-mail: info@simplexinst.com

ご注意事項

- 本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客さまが損害を被ったとしても当社、および情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製、または販売等を行うことは固く禁じます。
- 必要証拠金額は当社証拠金(発注済の注文等を加味した証拠金×100%)－ネット・オプション価値(Net Option Value)の総額となります。
- 当社証拠金、およびネット・オプション価値(Net Option Value)の総額は発注・約定ごとに再計算されます。
- 証拠金に対する掛け目は、指数・有価証券価格の変動状況などを考慮のうえ、与信管理の観点から、当社の独自の判断により一律、またはお客さまごとに変更することがあります。
- 「HYPER先物コース」選択時の取引における建玉保有期限は原則新規建てしたセッションに限定されます。なお、各種設定においてセッション跨ぎ設定を「あり」とした場合には、プレクロージング開始時点の証拠金維持率(お客さま毎の証拠金掛目およびロスカット率設定に関わらず必要証拠金額は証拠金×100%で計算)が100%を上回っていれば、翌セッションに建玉を持ち越せます。「HYPER先物コース」選択時は必要証拠金額は証拠金×50%～90%の範囲で任意に設定が可能であり、また、自動的に決済を行う「ロスカット」機能が働く取引となります。
- 先物・オプションの証拠金については日本証券クリアリング機構のWEBサイトをご覧ください。
- 指数先物の価格は、対象とする指数の変動等により上下しますので、これにより損失を被ることがあります。市場価格が予想とは反対の方向に変化したときには、比較的短期間のうちに証拠金の大部分、またはそのすべてを失うこともあります。その損失は証拠金の額だけに限定されません。また、指数先物取引は、少額の証拠金で多額の取引を行うことができることから、時として多額の損失を被る危険性を有しています。
- 日経平均VI先物取引は、一般的な先物取引のリスクに加え、以下のような日経平均VIの変動の特性上、日経平均VI先物取引の売方には特有のリスクが存在し、その損失は株価指数先物取引と比較して非常に大きくなる可能性があります。資産・経験が十分でないお客さまが日経平均VI先物取引を行う際には、売建てを避けてください。

ご注意事項

- 日経平均VIは、相場の下落時に急上昇するという特徴があります。
- 日経平均VIは、急上昇した後に数値が一定のレンジ(20~30程度)に回帰するという特徴を持っています。
日経平均VIは、短期間で急激に数値が変動するため、リアルタイムで価格情報を入手できない環境での取引は推奨されません。
- 指数オプションの価格は、対象とする指数の変動等により上下しますので、これにより損失を被ることがあります。なお、オプションを行使できる期間には制限がありますので留意が必要です。買方が期日までに権利行使又は転売を行わない場合には、権利は消滅します。この場合、買方は投資資金の全額を失うこととなります。売方は、市場価格が予想とは反対の方向に変化したときの損失が限定されていません。また、指数オプション取引は、市場価格が現実の指数に応じて変動しますので、その変動率は現実の指数に比べて大きくなる傾向があり、場合によっては大きな損失を被る危険性を有しています。
- 未成年口座のお客さまは先物・オプション取引口座の開設は受付いたしておりません。
- 「J-NETクロス取引」で取引所立会市場の最良気配と同値でマッチングする場合、本サービスをご利用いただくお客さまには金銭的利益は生じないものの、SBI証券は委託手数料を機関投資家から受け取ります。
- J-NETクロス取引の詳細は適宜修正される可能性がありますのでご注意ください。

金融商品取引法等に係る表示

本セミナーでは、セミナーでご紹介する商品等の勧誘を行うことがあります。これらの商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。商品毎に手数料等及びリスクは異なりますので、詳細につきましては、**SBI証券WEB**サイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。

金融商品取引法等に係る表示

https://search.sbisec.co.jp/v2/popwin/info/home/pop6040_torihikihou.html

商号等:株式会社SBI証券 (金融商品取引業者、商品先物取引業者)

登録番号:関東財務局長(金商)第44号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会、一般社団法人 日本STO協会、日本商品先物取引協会